



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



念願の夫婦展を金婚記念に開催

地域の活性化も目指す元気人

夫婦生活50年。ようやく開催にこぎつけた夫婦展で、多くの方に感動を与え、地域の活性化も目指す元気な夫婦を紹介します。

田中政信さん(70歳)・和恵さん(72歳)山王町



来場者でにぎわう夫婦展



床の間に合う豪華な木工



作品に囲まれ、笑顔の田中さん夫婦

長年の夢が実現

築150年以上の古民家で開催された木工・ちぎり絵夫婦展。古い家が醸し出す穏やかな空気にちぎり絵・木工の作品が溶け合って、多くの方がこのゆったりとした雰囲気の中でくつろいでいました。

自然を生かした作品を

「趣味で続けてきた木工とちぎり絵の作品展を夫婦で開催するのが夢だったので、感謝無量です」と話すのは、3月に結婚50周年を迎える田中政信さんと和恵さん夫婦。お互いの趣味である木工とちぎり絵の作品を約30点ずつ出品し、但東町相田の政信さんの生家で展示会を開催しました。

小学2年生のころから趣味で木工を続けてきた政信さんは、就職後も暇を見つけては作品作りをしてきました。退職後は、大作に取り組むため、生家に通いました。「生家は10年くらい使っていなかったのですが、展示会の開催を決めてから3年かけて修繕しました。こちらに通うようになって、人に任せていた田んぼもまた自分



夫の額に映える妻のちぎり絵。二人の合作

いつか「コウノトリ」の作品を

和恵さんは、ちぎり絵講師の免許を取得し、10年前から自宅でちぎり絵教室を開いています。子どもがまだ小さかったころ、県立但馬文政府で開催された講座で、ちぎり絵を習ったことが契機となりました。「子育ても終わり、今は、せっかく与えられた時間を大切に使おうと思っています」と和恵さんはほほ笑みます。今回は、コスモスやピエロ、伊根の舟屋などが、まるで水

で作るようになったんですよ」と政信さんは笑います。木工製品は、木を乾燥させて切り、仕上げるまでに10年掛かります。今回は、ケヤキを使った座卓やテーブル、火鉢やしゃもじなどを展示しました。政信さんは「できるだけ自然の形を生かしたものを作りたいんです」と話します。



田中さん夫婦。誰もがうらやむおしどり夫婦

次の夢をかなえるため頑張る

市内外から訪れた方たちは「木工とちぎり絵が、築150年の家にマッチしていて、とてもほっこりする」と口をそろえます。「これを機会に、この家を地域活性化のために役立てたいですね。今後、ギャラリーとして、地域の方に使ってほしいです」と、二人はさらなる夢に向かって歩み続けます。

広報マンがやってきた!

幼稚園編

日高幼稚園

(日高)

13

〈園児52人〉



日高の市街地に位置する日高幼稚園では、毎年、園児たちの祖父母を招き、交流をしています。

1月12日、おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に遊ぶ交流会が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

早く来ないかな...

少しソワソワしている園児たち。園舎の玄関では自分のおじいちゃんやおばあちゃんが来るのを、いまかいまと心待ちにしています。

園児たちが手にしているのは「〇〇くんのお願い」のカード。おじいちゃん(おばあちゃん)と書かれた名札。早く掛けてあげたいな...



しつかり言えるかな?

交流会のスタートは自己紹介。園児たちは、自分のクラスと名前を発表しました。

すると、園児たちのおじいちゃんやおばあちゃんも負けじと、笑顔で自己紹介。園児たちは、誰のおじいちゃんおばあちゃんなのか興味津々です。



たくさん教えてね!

今日の先生は、園児たちのおじいちゃんとおばあちゃん。けん玉、あやとり、まりつきなど、いろんな遊び



を分かりやすく教えてくれました。

また、園舎には、おじいちゃんやおばあちゃんの手作りのお手玉や福笑い、玄さんの的当ても...

時には、こまを投げて手の平で回す、名人芸も飛び出すなど、園舎は大にぎわいでした。

いつまでも見守ってね!!

園児たちは、おじいちゃんやおばあちゃんと一緒にダンスをした後、いつも練習している歌を披露しました。

楽しい時間はあっという間に過ぎるものです。

「ありがとうございます。また来てください」と、感謝の気持ちを伝える園児たち。これからも私たちを見守ってくださいね!



顔輪 笑の

三味線の楽しさを伝えたい
民和会(但東)

息の合った、三味線の音色が会場に響きます。

民和会は、三味線の習得を目的に、平成8年に設立。当初から代表兼指導者を務める羽尻正雄さん(但東町中山)が、

地域の方からの要望を受け、「やるなら、1人でも多くの方に三味線を知っていただく場を」ということで、但東町資母地区を拠点にスタートしました。



▲「ソーラン節」の演奏を楽しむ民和会の皆さん

太鼓や尺八とともに唄(民謡)も練習し、但東芸能発表会など、地域のイベントに毎年参加するほか、各地の敬老会や老人ホームなどに出席して演奏することもあります。

また、他のグループの共演として、踊りの伴奏を頼まれることもあります。

羽尻さんは「テープやCDで民謡を流して踊ることが多い中、生演奏は迫力も違う。グループ同士の交流も深め、唄の引き立て役である三味線の楽しさをもっと広めていきたい」と話していました。

入会希望・問合せは、羽尻さんまで。☎5610505